

MMC メトロミステリー倶楽部会報

2025年1月13日発行 第139号

いやあ、今年は、もう、よしながふみさんの世界にすっかりまぐりでしたわ。ほんでもう一つハマったのは、白川紺子さんの「京都くれない荘奇譚」、PHP研究所刊。ただ今五巻発行。もともと、下鴨アンティークシリーズは、



【奈華・選】

今年も出揃いました。MMC会員のベスト本！誰一人として被らないのがMMCのすごいところ。それではいつてみましょう。



MMC会員新春恒例、会報まるごと2024年・ベスト3！

好きやねんけど、こっちは、もともとホラー色が濃い話やねんな。いわゆる呪い師が登場する話。幼い頃から、お前は二〇歳で死ぬ運命だよ。と聞かされた少女が、宿命の青年と出会い次第に強くなっていくところが痛快。狐や狼などの職神が、ぞろぞろ登場。夏目友人帳辺り好きな人には、ピッタリやと思うわ。

で、最近ほんまもんの押み屋さんが書かれた、「田舎怪異百物語」いうのを読んでしまいました。郷内心臓著、イカルス出版。怖いけど切ない。怖がりなのにハマりそうやべい。ま、年の暮れには、ちよつと縁起のええもんではめまひよか。ほしおきな著、「銀河ホテルの居候」、光り続ける灯台のように。集英社文庫。英国風の古いホテルの客達が、一番届けたい人に書く手紙によって、癒やされ再生していく話。これは、シリーズものです。二巻目。ええお年を。京都舞台となると、なんやいつの間にか関西弁になってしまいます。よろしくです。

【康綺堂・選】



2. 二川透「土屋隆夫の作品と生涯」(文彩堂出版)

3. 「台所に敗戦はなかった」 魚柄仁之助 (ちくま文庫)
戦中戦後、知られざるアレクシメニエとその時代背景をひもとく一冊。

1. 横溝正史「死仮面」

「オリジナル版(春陽文庫) 幻と呼ばれた初出誌をもとに横溝正史本人による「オリジナル版」が、今よみがえる。

こちらMMC勝手連絡集

あけましておめでとうございませう。会報発行が年に三回と減りましたが、なるべく絶やさないように頑張っていきたいと思っています。

みなさん原稿お願いしますね！ (瓜)

本年もよろしくお願いいたします。昨年読めなかった京極先生の分厚い本を、気合入れて読むつもりです。(ばに)



MMC
メトロミステリー倶楽部

当クラブはミステリー好きのみなさまの集まりです。小説、短編、エッセイ、マンガ、アニメ、ゲームなど、何でも歓迎します。お気軽にご参加ください。

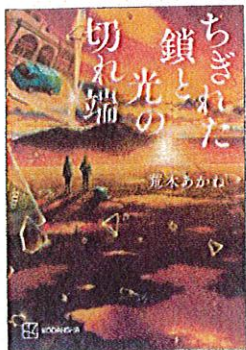
〒850-0811
長崎市矢の平2-11-4
MMCクラブハウス
garirin@sai@awa.bbq.jp

【クック教授・選】

1. 「ちぎれた鎖と光の切れ端」

荒木あかね 講談社

史上最少年で乱歩賞を獲得した荒木あかねの第2作は「孤島」ミステリーのようなでありながらヒューマンミステリーとしても秀逸な秀作で、お勧め作です。荒木あかねは、「オール読物」でも、昨年二作の警察シリーズを掲載していますが、事件現場は長崎で、浦上署の若手刑事三人が主体の見応えのある作です。



2. 「海を破る者」

今村翔吾 文藝春秋

直木賞受賞以来、意欲的な作「幸村を討て」に続いている快作です。元寇の乱を中心に、アジア人との交流に目覚めながら、戦乱を



駆け抜ける社会派ミステリーで、時代を超えて現代人の心を撃つミステリーです。

3. 「陰陽師」

夢枕獏 文春文庫

昨年夏、ある雑誌から「人々の元気づくり」という一文を依頼され、陰陽師四〇巻を読破した。阿部清明の妖術などには、荒唐無稽の感があるが、人間の元気づくりの根底には、自然と関わり、共生が大事であること、人間の元気づくり活動には音楽が基底となることを改めて学習した。

【佐助・選】

1. 「色彩から読み解く『源氏物語』」
江崎泰子 亜紀書房
色彩研究において他の追随を許さぬ著者の深い洞察力によって、紫式部が思い描いた「源氏物語」で繰り広げられる、光源氏とそれを取り巻く女性たちの「心の色彩」の秘密が解き明かされる。
目からウロコ「源氏物語」研究書の決定版！



2. 「哀惜」

アン・クリーヴス 早川書房
ジミー・ペレス警部シリーズやドラマ「ヴェラ、信念の女警部」でお馴染みの英国ミステリー界の巨匠アン・クリーヴス待望の

新シリーズ第1作。

イギリス南西部ノース・デヴォンの海岸で死体が発見された。被害者はアルコール依存性の男で、心に病を抱えながらも、立ち直ろうとしていた彼を殺したのは何者なのか？ 警部マシュー・ヴェンが事件と真摯に向き合う展開。
3. 「特捜部やカールの罪状」
ユッシ・エーズラ・オールスン シリーズ第9作。次回十作でシリーズ完結。
今作は最狂のシリアル・キラー事件を捜査しながら、主人公カールに過去の事件での嫌疑がかかるという、ハラハラ、ドキドキの展開。

【下サ健・選】

①『非色』

(有古佐和子、河出文庫)

②『北斎になりすました女 葛飾応為伝』
(檀乃歩也著、講談社)

【南瓜・選】

大河ドラマがらみの三冊

1. 「枕草子のたくらみ」

山本淳子 朝日新聞出版
遠い昔、古文で習ったときはきらびやかな暮らしと己の才知を綴った話だと浅はかにも思っていたのが恥ずかしい。仕えていた定子の寂しい晩年を慰めるため、またその死後は鎮魂の思いで書かれたものと知りました。
読みやすく、面白く、昨年のドラマも夢中で見ました。



3. 「写楽殺人事件」

高橋克彦 講談社文庫
去年と来年の大河ドラマ関連の本を挙げたので今年のも何かと思い昔読んだ本を引っ張り出しました。
浮世絵師写楽の正体は何者か？ 主人公の美術史家による謎の解明が、そのままミステリ小説になっています。
多色刷りの浮世絵の製法とかも知ることができず、高橋重三郎も出てきますよ。
私は高橋克彦のいくつかの小説で高橋重三郎と山東京伝の存在を知りました。

【えこぼに・選】

1. 「森から来た少年」

ハーランコーベン 小学館文庫
幼い頃森でたった一人で育ったワイルド、彼は古代女性弁護士ヘスターから孫の行方不明の同級生を探してほしいと依頼をうける。この一見どうでもいいような捜査が大事事件へと繋がっていきます。
ワイルドの過去、ヘスターのロマンスと知りたいことは沢山あるけど、最後はそこ！となるわけです。てんこ盛り内容の割にはすっきり納得していました。



③『鳩の撃退法』

(佐藤正午、小学館文庫)
圧倒される傑作ミステリー

④『囃る』

(黒川博行・文藝春秋)
美術教師の前職がある著者の、美術品詐欺を題材にした連作短編ミステリ

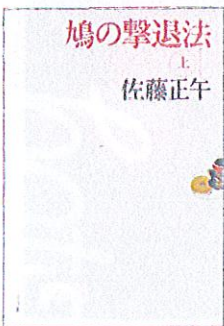
『北斎になりすました女 葛飾応為伝』
(檀乃歩也著、講談社)



葛飾北斎の娘で絵師である応為(お栄)の半生を描いたノンフィクションだ。
応為は北斎の創作を手伝ったとされる絵師。俺の美人画はお栄(応為)に到底敵わぬ」と北斎が認める才能だが、彼女の作品は数点しか知られてゐず、その

生涯も殆ど闇に包まれてゐる。作者は偉大な資料を読み解き、大胆な推理で応為の姿を炙り出してゆく。そして、北斎の創作の多くが応為との共同作業である、と結論付ける。さらに北斎の最晩年の作品「雪中虎図」は応為の筆によるものと推断する。良質のミステリー小説を読むやうに面白い。お薦めだ。

ところで、応為を主人公にした小説では、NHKでドラマ化された朝井まかての『眩(めまい)』(新潮社)が楽しめる。



で解決するストーリーです。目新しさはないけれど、作者のストーリー展開が上手いのか、キャラクターが活きているのか、素直に面白かったです。

3. 「夢喰い」

佐藤史生 河出書房新社
マンガです。その昔友人に勧められて読み、また読みたいと思っていたら短編集と特集本がありました。
本格SF、砂の惑星のような世界観のファンタジーSF、インド哲学が入った作品等々いまでも素晴らしいです。佐藤史生は二〇一〇年に死去されて、ご存命であればどんな作品を描いていたのか、残念でなりません。



2. 「豊臣秀長上下」

堺屋太一 文春文庫
あの秀吉の弟でドラマ等でも律儀ないい人、あまり表に出て



2. 「呪禁師は陰陽師が嫌い」
黒崎リク
平安時代、陰陽師、妖怪、そして怪異な事件発生、これを陰陽師青年と呪禁師の少年と